視覚に障害のある人や、文字を読むことが難しい人へ、広報みはらの内容を点訳した「点字広報」と、テープに録音した「声の広報」を作成している人たちがいます。

点字ボランティア「てんゆう会」と朗読録音グループ「声の友」です。

いずれも、30年以上の長きにわたり活動を続けている、歴史あるボランティア団体です。

今月号では、２つの団体を紹介するとともに、活動している人たちや利用している人の思いに迫ります。

特集

広報でつながる人ときずな

点でつながる心と心、一文字、一文字に温もりを込めて

てんゆう会

■点字翻訳室（ボランティア・市民活動サポートセンター内）にて

点訳をする時は、裏面から点筆を押しあて、盛り上がりを作ります。そのため、読む点字と左右が逆の点字を打つことになります。

点字広報で届ける生活情報

視覚に障害のある人たちの自立と社会参加を支え、より良い生活を支援したいと、昭和49年4月1日に設立した点字ボランティア「てんゆう会」。

設立と同時に、広報みはらの点訳を始め、以来39年間、視覚に障害のある人たちに日常生活の情報を届けています。

利用者の立場にたち、分かりやすい工夫を

視覚であれば、瞬時に理解できる情報でも、点字で理解するには、一文字ずつ指でなぞっていく必要があります。

そこで、利用者に分かりやすいように、読む順番を配慮したり、また、もくじを細分化することで、利用者が情報を取捨選択できるようにしたり工夫を凝らしています。

点字広報ができるまで

①広報誌の原稿が届く
秘書広報課からてんゆう会へ。

②原稿を割り振る

③手打ち、またはパソコンで点訳する
全文版は会員45人で、点字板と点筆を使い手打ち点訳。抜粋版は会員3人で、パソコンを使い点訳。

④校正
点訳に誤りがないか、最終確認。

⑤印刷・製本
抜粋版は、データから必要部数を印刷。

⑥発送作業
毎月、全文版2部、抜粋版22部をそれぞれ封筒に入れ、個人や福祉施設に発送。

すべての人に等しく情報を

三原では、今こんなことが起きている、こんな書物が発行されているなど、いろいろな情報を視覚に障害のある人にも届けられたら、と活動を続けています。

利用者から感謝の言葉をもらったり、点訳者の名前を覚えて声をかけてもらったりしたときは嬉しいですね。活動の励みになっています。

一歩ずつでも前進していく

点訳は、奥の深い技術。そのため会員一人ひとりが、技術と意識を高めることが必要です。毎月の定例会で研修を重ねるほか、小・中学校などでの体験授業を通じて福祉への理解を広め、一歩ずつ前に歩みを進めています。

今後は、利用者のニーズを掘り起こし、さらに活動を深めていきたいと思っています。

てんゆう会会長
貞井敏臣さん(78)

教えてもらうことがすごく多く、得るものがいっぱいある

声の友

写真を朗読するときは、被写体の表情や周囲の情景を説明するなど、耳で聞いて理解できるよう工夫しています。

■朗読録音室（ボランティア・市民活動サポートセンター内）にて

「声の広報」の誕生

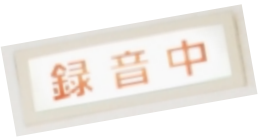
昭和55年6月21日、視覚に障害のある人たちへの支援を目的として、朗読録音グループ「声の友」が設立し、広報みはらをテープに録音する活動が始まりました。「声の広報」の誕生です。

以来、毎月テープの発行を重ね、今年30周年を迎えました。

声は人を表す

毎月差し迫った日程の中で作業をするしんどさはありますが、利用者の喜びの声に支えられ、活動を続けることができています。

また、声で名前を覚えてもらったり、時には、声のようすで体調を案じる連絡が入ったりと、声は人を表すと実感しています。



声の広報ができるまで

①広報誌の原稿が届く

秘書広報課から声の友へ。

②テープに吹き込む

半日から一日かけて、ベテランと若手の二人一組による作業。

③ダビング

35人分のテープを複製。16倍速の機械2台が3、4時間稼動。

④最終チェック

音が途切れているところはないか、音声が悪くなっていないかを確認。

⑤専用のケースで発送

聞き終わったら、ケースに付いている宛名を裏返してポストへ入れれば返送できる仕組み。返送がないと安否が心配になることも・・・。

病気から助かり社会奉仕へ

38年前、大きな病気をしたことがきっかけとなり、助かった命を社会奉仕に生かしたいと考え、声の友に参加しました。

毎年開催している交流会などの際に、利用者の皆さんからの感謝の言葉が、継続の大きな力となっています。

朗読技術に終わりはない

障害のある人だけでなく、高齢者や施設に入所している人など、利用者の範囲を広げていきたいです。また、テープからCDへのデジタル化など、時代の変化に応じた体制を作っていくことも重要です。さらに、朗読技術の向上を図ることなど、今後の課題は多いですが、これからも、より多くの知識や情報の提供者として、利用者の皆さんに元気な声を届けていきます。

声の友会長
内海克江さん(83)

生活を潤し、生きる希望と障害を乗り越える勇気を与えてくれた

利用者の声

大下英三さん(76)

光のない生活

進行性の難病で、15歳のとき目が見えなくなりました。

その後、盲学校へ通い、点字の読み書きを勉強し、目が見えなくても社会で暮らしていけるよう、はりときゅうの資格を取得しました。

目が見えない暮らしはとても苦しく、情報を得ることができないもどかしさや不安もありました。

一筋の希望の光

そんな暮らしに、一筋の光を照らしてくれたのが、てんゆう会と声の友の活動でした。広報みはらを点字に訳してくれるとともに、テープに録音してくれ設立当初から利用しています。

毎月1日に届くと、真っ先に手に取り、何回も点字を読んだりテープを聞いたりしています。

楽しみにしているのは、市政フラッシュや健康情報、自然観察といった行事などです。

安心して暮らせる社会へ

障害のある人もそうでない人も、同じように情報を共有することができるのは、てんゆう会や声の友の活動があるからこそで、とてもありがたく感謝しています。

また、交流会などの事業を通じて、外へ連れ出してくれることや、やさしい声をかけてくれることが、私たちの生活を潤し、生きる希望と障害を乗り越える勇気を与えてくれています。

すべての市民が読者となるために

秘書広報課
広報広聴係長
植村正宏

毎月発行する、広報みはら。市からの情報や主要な施策、各種イベントなどを、分かりやすく伝えるよう努めています。

また、一人でも多くの市民の皆さんが読者になることをめざしています。しかし、さまざまな障害から、紙媒体の広報誌だけでは、読者になりたくてもなれない人もいます。

こうした人たちにとって、広報の点訳や録音作業をしてきた、てんゆう会と声の友の存在は、障害を乗り越える希望の光を与えています。

広報みはらは、こうしたボランティア団体の支えを受け、障害の有無にかかわらず、すべての市民の皆さんへ情報を発信することができています。これからも協働で取り組んでいきます。

問い合わせ先　秘書広報課（☎0848(67)6007 FAX 0848(67)4984）